

## 「冬のダイヤモンド」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

冬の星座といえば、「冬の大三角」をすぐに思い浮かべる。おおいぬ座の「シリウス」、こいぬ座の「プロキオン」、そしてオリオン座の「ベテルギウス」である。ほぼ正三角形でわかりやすく、東京都内でも見つけやすいので、冬休みの観察課題になることが多い。



「冬の大三角」(クロスフィルター使用・北軽井沢)

その「冬の大三角」も2月になると、西の空に傾き始め、南天には「おとめ座」「からす座」など、春の星座が多く見られるようになる。



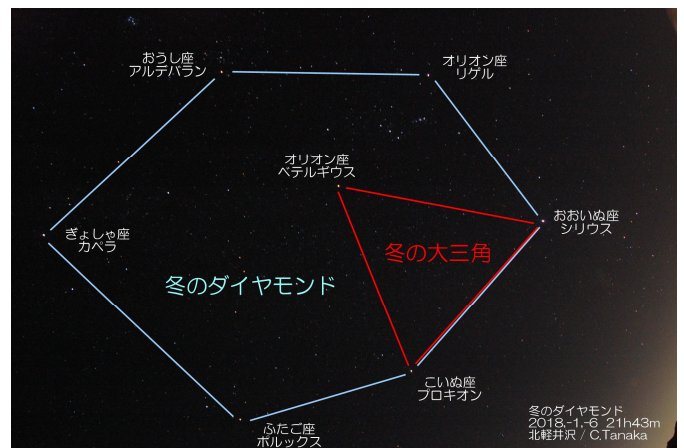
「沈む冬の大三角」(北軽井沢)

冬の星座には一等星が多くにぎやかである。冬の大三角以外にも、いくつもの一等星がある。冬の冬の大三角に、それらの一等星を合わせた7つの星の並びを、「冬のダイヤモンド」と呼ぶ。「冬の冬の大三角」は有名で教科書にも載っているが、冬のダイヤモンドはあまり知られていない。私も写真に撮ったことがなかった。



「冬のダイヤモンド」(北軽井沢) 2 ページ目に拡大

「冬のダイヤモンド」は、天球の広大な範囲を占めている。一番遠い関係にあるぎょしゃ座のカペラと、おおいぬ座のシリウスは、65度50分も離れている。天球上の星座の面積は「平方度」という珍しい単位で表現するが、冬のダイヤモンドの面積は、ざっと2500平方度もある。これだけ巨大な画角を1枚の写真に収めるには、超広角レンズが必要だ



「冬のダイヤモンド解説図」 2 ページ目に拡大

超広角レンズをデジタル一眼レフに装着すると、ファインダーから覗いても、恒星はあまりにも小さくてほとんど見えない。勘でいくしかない。およその方向にカメラを向けて何枚も撮ったが、7つの一等星が全部収まる写真が、なかなか撮れない。30枚ぐらい撮って、やっと全部の星が収まった。やや歪んだ形ではあるものの、冬の星空を彩るダイヤモンドである。

